

## テクニクスリスニングルーム試聴記(2019.8.7)

ネット情報からテクニクスブランドとして初となる、SACDの再生に対応し、ハイレゾ、ストリーミング、MQA-CD再生など多彩な音楽メディアの再生も可能なネットワーク/SACD/CDプレイヤー「SL-G700」を発売するとの報に接し、[Web情報紹介](#)【2019No.24】でも紹介しましたが、同好の士とともにテクニクスリスニングルームで試聴の機会を持つことにしました。

[https://online.stereosound.co.jp/\\_ct/17289235](https://online.stereosound.co.jp/_ct/17289235)

<https://www.phileweb.com/news/audio/201907/22/21025.html>



### <試聴システム>

現在の試聴可能な機器は次のとおりですが、これに「SL-G700」が加わったわけです。

1. リファレンスクラス R1 Series
  - ・ステレオパワーアンプ「SE-R1」
  - ・ネットワークオーディオコントロールプレーヤー「SU-R1」
  - ・スピーカーシステム「SB-R1」
  - ・ダイレクトドライブ ターンテーブルシステム「SL-1000R」
2. グランドクラス
  - ・プリメインアンプ「SU-G700」
  - ・スピーカーシステム「SB-G90」
  - ・ミュージックサーバー「ST-G30」
  - ・ダイレクトドライブターンテーブルシステム「SL-1200G」
  - ・ダイレクトドライブターンテーブルシステム「SL-1200GR」
3. プレミアムクラス
  - ・オールインワンプレミアムオーディオシステム「SC-C500」
  - ・コンパクトステレオシステム「SC-C70」
  - ・ワイヤレス スピーカーシステム「SC-C50」
  - ・ダイレクトドライブ ターンテーブルシステム「SL-1500C」

### <試聴経過>

今回は主として、ネットワーク関係の試聴と MQA-CD の試聴を行いました。  
MQA-CD の試聴には、入手したばかりの [ワーナーミュージックハイレゾ CD 名盤コレクション](#) の MQA-CD と [ユニバーサルミュージック](#) の MQA-CD と SACD を使用しました。その他、ST 氏持参の SACD と、比較のために試聴室備え付けのアナログ盤と MQA-CD も使用しました。



まずは、同席の ST 氏の要望で、ミュージックサーバー「ST-G30」内の音源を LAN 経由で「SL-G700」に送るネットワーク再生からスタートしました。



最初は、サーバー内のホテルカルフォルニアの 96KHzFLAC 音源とアートペッパーの 44.1KHzFLAC 音源を対応するアナログ盤と比較試聴しました。ネットワーク再生は少しデジタルらしいところがありますが、非常に切れの良い音です。アナログの方は、フラッグシップのプレイヤー「SL-1000R」とオーディオテクニカの AT-1000 と Ortofon の EQA-555 の組み合わせの再生で、少し柔らかめのクオリティの高い音でしたが、同席の Y 氏はネットワーク再生のすっきりとしたクリアな音に比べて、幾分か、ぼやけ気味になると感じられたようです。

ついで S 氏の要望で、クラシックということで、サーバー内の春の祭典の 2.8MHzDSD 音源が再生されましたが、これも細かい音が出ており、DSD のメリットが感じられます。

ここで、SACD の試聴ということで、ST 氏持参の男性ボーカルとエラ&ルイの掛け合いのジャズボーカルと女性ボーカルを聴いてみましたが、これまでの SACD のイメージと違った、濃密なコクのある再生ぶりです。Y 氏はさかんにボーカルが魅力的で

あるという感想を述べておられました。エラ&ルイは、サーバー内の 96KHzWAV も聴いてみましたが、すこしさっぱりとした印象です。

ここでMQA-CDの再生に移り、ユニバーサルミュージックのJazzのサンプル盤からY氏の指定曲をかけましたが、表示は352.8KHzと出ています。サンプル盤ではないMQA-CDとアナログ盤もかけましたが、MQA-CDは、アナログ的な音がします。



次に、ワーナーミュージックのMQA-CDのフルトベングラーの第9の4楽章を聴きましたが、1951年のモノラル録音とは思えない濃密なリアルさがあり、機会を見てアナログ盤と比較してみたいと思います。

ついで、オーディオアクセサリ誌173号(2019 Summer)の付録のMQA聴き比べCDから44.1KHzCD、44.1KHzMQA、88.2KHzMQAの3つのフォーマットを聴いてみましたが、違いははっきりと分かります。これについては、上新電機ハイエンドオーディオのブログで、「MQA対応機器の可及的速やかな発売を」という記事でも取り上げられています。「SL-G700」はタイミングよく、この期待に応えたこととなります。

<http://blog.joshinweb.jp/hiend/>



さらに、Y氏持参のiPadからAir Playでいくつかの曲を聴いてみましたが、フォーマットの限界を感じさせない音がしていました。この後、Bluetoothのペアリングの設定に手間取っている間に時間切れになってしまいました。

なお、新発売の「SL-1500C」も少しばかり聴きましたが、価格を考えれば、コストパフォーマンスは非常に高いものです。

<まとめ>

SACD と MQA-CD については、市販前の展示品でしたが、音質的な完成度が高く、旭化成エレクトロニクスの「AK4497」を L/R に 1 基ずつデュアルモノーラル構成で搭載したことやクロック用の電源に独自のバッテリー駆動による低ノイズ電源を使用した効果が出ていると思われます。

ネットワーク再生については、LAN 機器や LAN ケーブルの影響も受けますので、そのあたりの見直しでさらに変わってくると思われます。

MQA-CD については、アナログに拮抗する印象でしたが、主に Jazz 音源でしたので、機会を改めて、クラシック音源で再度確認したいと思っています。

以上